

地域スポーツ論		講義	教授 小笠原 正志	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコースの選択 必修科目, スポーツトレーナーコー スの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312203 11532205 12220204 12532205	

1. 授業のねらい・概要

人生 100 年時代の到来が予測されている。人生が長くなればなるほど、健康体をより長く維持していくことのできる持続可能な社会を構築していくことが求められている。とりわけスポーツは、心身の健康を維持する上で重要な役割を果たすことは明らかである。国民ひとりひとりが、生涯にわたって身近な地域でスポーツに親しむことを可能とする環境づくりは、人生 100 年時代における必須の社会課題といえる。

近年では、プロスポーツチームのホームタウン性による地域活性化や、総合型地域スポーツクラブによる地域住民のスポーツ活動の促進など、スポーツを通じた地域づくりが注目されている。また、認知症予防や介護予防のために、高齢者向けの筋力トレーニングを地域で実践するなど、地域に根差したスポーツの普及の仕組みづくりが模索されている。

そこで、本講義では、地域スポーツの意義やその機能を理解するとともに、具体的な実践例を通して、生涯にわたるスポーツの実践と地域づくりについて学習する。

2. 授業の進め方

地域スポーツ論の基本概念を理解するとともに、様々な実践例を用いて具体的なプログラムなどの提案を検討する。地域スポーツの具体的な内容について調査し、レポートにまとめる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. プロ野球チームとまちづくり
2. スポーツ少年団からスポーツと地域を考える	10. スポーツツーリズムとまちづくり
3. 地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり	11. 高齢者のスポーツとまちづくり
4. スポーツ基本法とスポーツ基本計画	12. 地域スポーツの現状 地域スポーツを取り巻く現状を調べる
5. 総合型スポーツクラブの必要性和社会的意義	13. 地域スポーツの実践例 (1) グループ発表
6. 総合型スポーツクラブのマネジメント (育成・運営)	14. 地域スポーツの実践例 (2) グループ発表
7. 地域スポーツクラブの活動拠点の確保	15. 地域スポーツの実践例 (3) グループ発表
8. プロサッカーチームとまちづくり	講義のまとめ

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

参考図書を 1 時間程度かけて、次回講義まで読んでおく。新聞やインターネット等を通して、地域における様々なスポーツ活動に関する情報を得ること。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

課題に関しては次回の講義で数人に発表してもらい講評する。最終課題についてのそれぞれの発表時に講評する。

6. 授業における学修の到達目標

地域における様々なスポーツについて学習し、関心を高めるとともに理解を深めていく。

自分の住む町の地域スポーツクラブ、スポーツイベントに参画、協力することができる。

7. 成績評価の方法・基準

講義への参加意欲ならびに各回の課題への取り組み状況 (50%)、および期末レポート (50%) により総合的に評価する。ただし講義回数分の 3 分の 1 以上欠席した者は評価の対象としない。

8. テキスト・参考文献

特定のテキストは使用しない。講義資料は適宜配布する。

参考図書：山口泰雄「地域を変えた総合型スポーツクラブ」 大修館書店（2006）
二杉茂ら「地域スポーツクラブ指導者ハンドブック」 晃洋書房（2009）
木田悟ら「スポーツで地域を拓く」 東京大学出版会（2013）

9. 受講上の留意事項

私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，企業における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。